

愛産研 ニュース

愛産研ニュース

平成 18 年 2 月 3 日発行

No.47

編集・発行

愛知県産業技術研究所 企画連携部

〒448-0003 刈谷市一ツ木町西新割

TEL 0566(24)1841・FAX 0566(22)8033

URL <http://www.aichi-inst.jp/>

E-mail info@mb.aichi-inst.jp

2 月号
2006

今月の内容

- 燃料電池トライアルコアと産学官連携
- 新規柄出し装置の開発（部分よこ系挿入装置）
- レーザーマーキングの利用について

燃料電池トライアルコアと産学官連携

本誌 12 月号（2005 年、No. 45）で紹介したように当研究所では去る 11 月 22 日に『燃料電池トライアルコア』の開設並びに記念講演会を開催し、約 200 名の参加者でにぎわい、改めて燃料電池に対する関心の高さを実感させました。ここでは燃料電池開発における産学官連携の必要性と同『トライアルコア』設置の意義について考えてみます。

ご承知のように 20 世紀の文明は石油を始めとする化石資源を活用して急速に発展してきたといっています。しかし、四半世紀前から幾度かの石油ショックに代表されるように化石資源の有限性が叫ばれ、また近年では地球温暖化の原因となる CO₂ の排出規制の動きもあり、脱化石資源化への関心が高まっています。

エネルギー分野では太陽電池などの新エネルギーへの期待が高まっています。新エネルギーのうち最も実用化が進んでいるのは太陽電池ですが、日照条件などの自然条件の影響を受けやすいという欠点があります。そこで、注目されてきたのがクリーンエネルギーとしての燃料電池であるといえます。燃料電池は来るべき水素社会との関連においてその一翼を担うにふさわしい産業分野として期待されており、先の愛知万博においても実証実験が行なわれたことは記憶に新しいことです。さらに万博終了後も中部臨空都市（愛知県常滑市）において常滑市役所や同市浄化センターへの電力供給実験が継続されることになっています。また、愛知県では新エネルギー関連事業として水素エネルギー産業協議会を立ち上げ、水素インフラ整備・活用、燃料電池実用化に関する調査研究活動を行なっています。

しかし一方、燃料電池開発は既に大手企業を中心に進められ、今後新たに中小企業が参画することに疑問を持つ経営者は多いと思います。しかし今後の燃料電池の実用化や多種の用途開発を考えた場合、今後、様々な既存の産業で培われた技術シーズが関与する必要がある、その点において産学官連携の重要性が指摘されています。そして正にそこに「燃料電池トライアルコア」の設置の意味があります。当研究所においても燃料電池に直接関連する研究員の他に様々な技術分野に対応した技術シーズを持った研究員も多く、そうした技術シーズを背景にして燃料電池の実用化に取り組む様々な企業・大学との連携の一元的な窓口として活用していただくことを設置目的としています。

産学官連携を成功させるには、互いに共通の目標を持つこと、互いに不足する部分を補完できること、個人的なコミュニケーションの場があること、地域的な近さがポイントであると言われています。「隗より始めよ」の諺にあるように、まずは『燃料電池トライアルコア』の積極的な利用をお願いします。ご相談は担当研究員または統括研究員までお願いします。

